



えひな

編集・発行
海老名市役所秘書広報課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎ (0462) 31-2111

この広報は再生紙を使用しています。

みんなの愛と協力で



▲福祉スタンプラリーに挑戦
(去年の福祉のつどいから)



10/30

第12回福祉のつどい



本番に向け総合福祉会館で熱心に練習する「山びこ琴の会」のメンバーたち(平成6年10月1日撮影)



わかば会館・保健相談センターで開催

お年寄りも若い人も、身体に障害を持つ人も持たない人も、みんなでつどい触れ合い、お互いに支え励まし合うことを通して思いやりあふれる心豊かな街づくりをすすめるため、10月30日(日)「第12回福祉のつどい」を開催します。当日は、子供からお年寄りまで楽しめる催し物を企画していますので、ぜひ、ご家族やお友達とご来場ください。

福祉体験してみませんか

第12回福祉のつどいのプログラムは、左表のとおりです。開催時間は、午前10時から午後3時までです(雨天決行)。なお、駐車場は限られた台数しか駐車できませんので、車でのご来場はご遠慮ください。

会場では、福祉体験コーナー・各種模擬店コーナー・ゲームコーナーや、日ごろの練習成果を披露する「踊り・マジックショー・大正琴」、ビデオ上映など各種福祉団体(25団体)の会員が、子供からお年寄りまで楽しめる多彩な催し物を用意しています。

▷問い合わせ 社会課(内441)へ。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
わかば会館 交 互 室	子供 ばかり	踊り	のど自慢	手話の歌	休 憩	マジック
ホ ー ル				抽 選 所		
外		スタンプラリー・模擬店・アイバンクコーナー				
外		ゲーム大会		ゲーム大会		
外		車イス体験ラリー		車イス体験ラリー		
外		もちつき大会		もちつき大会		
外		バ ザ ー		バ ザ ー		
1階会議室		飲食コーナー				
1階会議室		ボランティアコーナー				
2階視聴覚室	ビデオ上映 (音楽あり)	新ちゃん (歌詞あり)	裏表の きずな		新ちゃん (歌詞あり)	裏表の きずな
2階会議室	手芸のふれあいコーナー・介護体験コーナー					



◀ユニークガガシズラリ

中新田かかしまつりが9月21日から10月2日まで中新田営農組合の主催で行われた。会場のわかば会館西側農道はクレヨンしんちゃんや向井さんなど43点で賑やかに飾られた。

知恵と勇気を学ぶ▶

強引な訪問販売や悪質商法など暮らしを考える場としての「みんなの消費生活展」が9月24日から26日までの3日間、海老名サティで開催され、約7000人が来場した。



フォトピックス



雨の中20,000人参加▶

9月15日、「'94運動公園フェスティバル」が総合体育館・屋内プールを会場として行われ、トランボリンや○×クイズなど多くの催しに快い汗と親子のふれあいを楽しんだ。



◀事故なしを願って…

9月27日、海老名駅前で秋の交通安全運動・街頭キャンペーンが行われた。行き交う人々に「梨」をプレゼントして、交通ルールと交通マナーの実践を呼び掛けた。

関東大震災前の話だが、月夜の晩、近所の人が燈籠(だいろう)を立てて、その頃になると親類との行き来も多くなり、生糞物など持ち歩くのを目に狙われる事が多かつた。

農村の秋祭りは、たいていこの蕎麦の咲く頃に行われたが、外へ出ることの少なかつた農家の人は達はこれを楽しみにしていたので、その頃になると親類との行き来も多くなり、生糞物など持ち歩くのを目に狙われる事が多かつた。

谷の小字を通つたら、知り合の籠屋さんが戻をまくつて蕎麦畑の中を行たり来た

りしていた。声を掛けたが気

がつかず「おお深い、おお深

い」と言って、夜露にびっし

より濡れながらおも畳の中

を歩き回っているので、手

を引っぱつて無理やり連れ出

したが、「お祭りに行った帰りで買ってきた」という重説めの御馳走は持つておらず、風呂敷包みのつもりで着物の裾

をしつかりと握っていたそ

である。月明かりで見る花盛

りの蕎麦畑は、湖面のように

美しいので、幻覚で水に見え

ました。

用心すれば何事も被害を受け

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時々で、七十日内外で收

獲できるため稻の取り入れ前

に処理できるという利点があ

つて作付けする農家が多くな

った。この作物が瘦地や開墾

地向きで、手が掛からないよう

に肥料も余り必要としない

ので、たいてい里離れた山

間の畠などに作られたが、秋

闇にその花が真白に咲き揃

うと白い布を敷き始めたよ

うと見えたし、月夜の晩などに

は幻想的で川か湖水のように

も見えた。

農村の秋祭りは、たいてい

この蕎麦の咲く頃に行われた

が、外へ出ることの少なかつ

た農家の人は達はこれを楽しみ

にしていたので、その頃にな

ると親類との行き来も多くな

り、生糞物など持ち歩くの

で狐に狙われる事が多かつた。

関東大震災前の話だが、月

夜の晩、近所の人が燈籠(だい

ろう)を立てて「化かされ

別段腹も立てず」化かされ

て蕎麦畑を歩いたのは私だけ

ではないよ。他にいるはず

だから、お家の人に聞いて見

りしていた。声を掛けたが氣

がつかず「おお深い、おお深

い」と言って、夜露にびっし

より濡れながらおも畳の中

を歩き回っているので、手

を引っぱつて無理やり連れ出

したが、「お祭りに行った帰り

で買ってきた」という重説め

の御馳走は持つておらず、風

呂敷包みのつもりで着物の裾

をしつかりと握っていたそ

である。月明かりで見る花盛

りの蕎麦畑は、湖面のように

美しいので、幻覚で水に見え

ました。

用心すれば何事も被害を受け



海老名 かじむかし

第336話

狐と月夜の蕎麦畑

すに済むということである。

これは、籠屋さん自身の体験談だ。そうだが、本郷の大きな農家へ四、五日続けて仕事を行つた折、都合で最終日が遅くなり、月夜の畠道をてくて帰つくると道傍の墓地

があるが、秋蕎麦は八月下旬

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしている傍で、「そんなこと

は止めて帰りましょう」と手

をとつて立たせようとしたら

五拾銀貨をたくさん地面に

並べているので、「そんなこと

は止め帰りましょう」と手

をとつて立たせようとしたら

で、顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本を重ねて

顔なじみの心易さから仕

事をしていて、

籠屋のおじさん化かされて

てしまつたのかも知れない。

この籠屋さんは、頼まれて

が時

で、七十日内外で收

養蚕農家の蚕座籠を編んだ

仕事を頼まれる農家の息子

で化かされ博奕でもし

ているつもりらしく、大きな

井桁に組み、その中に閉じ込

めて連れ帰つたが、時代劇の

捕り物のよう騒ぎだつたそ

うで、踏み荒らされた蕎麦畑

は実らない赤い実が何時まで

り出し、さらに一本